

2. 交流内容に関する事項

(1) 交流内容について(できるだけ具体的にご記入ください)

① 交流名 (事業名)	「山形から世界へ One Heartプロジェクト」
② 交流の内容	<p>One Heartプロジェクトでは、鶴岡市と姉妹都市のニューブランズウィック市(以下、NB)の友好関係を一層深めることを第一目標に事業を進めている。本プロジェクトの大きな特徴は、新型コロナウイルスの感染拡大の歯止めのかからない状況であった当初(2020年6月)、米国東海岸に位置するNB市に対し、遠隔で、相手の立場を考慮して出来ることはないかと有志が考え合った末に生まれた交流活動である。</p> <p>2020年11月現在までの間、以下の5つの活動を通じて、市民が気軽に参加できる国際交流と鶴岡市の青年の人材育成を目指し、参加者一同楽しんで取り組んでいる。</p> <p>① マスクが希薄で米国の新型コロナウイルス感染率が右肩上がりの最中、鶴岡市民による手作りマスクの寄贈を募り、合計230枚を姉妹都市であるNB市へ、二度に分けて贈呈した。</p> <p>② 姉妹都市NB市の感染拡大鎮静化の願いを込め、鶴岡市民1,000人以上が手掛けた折鶴(1,803羽)を、2組の千羽鶴に仕立て、神社にて祈祷で清め、NB市へ送付した。送られた千羽鶴は、NB市の市役所で一般公開の後、市内商店街等で展示された。</p> <p>③ 市民とNB市に向け、コロナ禍を共に乗り越えるための応援メッセージソングを作成する。バンドのメンバー募集から始め、作曲・作詞・翻訳・アレンジを重ね、「One Heart -Keyword for the future」というタイトルの曲が完成した。</p> <p>④ 応援メッセージソング「One Heart」に合わせ、市長始め鶴岡市民(100人以上)が登場する動画を作成し、ユーチューブにアップロードし、NB市民に届けた。 https://www.youtube.com/watch?v=BnvTDOPymPs</p> <p>⑤ 上記の波及効果から、音楽だけでなく、芸術面でも遠隔で交流できないものかと、NB市から提案され、「Art of Diplomacy」と名付けられた姉妹都市間のバーチャルアート展覧会の開催が現在進行中。鶴岡市からは皆川市長、副市長を始め、市民から絵画、写真、ポエム、書道など多岐にわたる芸術が表現され、11月24日に応募が締め切られ計13点の作品を提出した。12月以降、Web上の展覧会が公開予定である。</p>
③ 背景・経緯	<p>2020年は、鶴岡市とニューブランズウィック(NB)市との姉妹都市盟約締結後、60年の友好関係を記念する年であり、訪問団や中学生相互交流事業など、様々な行事が予定されていたが、新型コロナウイルス発生により、やむなく中止となった。</p> <p>自分たちの身がどのようになるか分からない、流れてくる情報も何を信じてよいか分からない、そんな状況の中で、遠く離れ、ロックダウンの中、生活をしているNBの友人たちの心境を考えた時、One Heartプロジェクトの構想が生まれた。</p> <p>これまででも歴史上、心をひとつにして自然災害等の困難を乗り越えてきた日本人の国民性に加えて、鶴岡市民による支援の大きな力がNB市の友人たちを励ますことになるのではないかと。同時に、「世界は一つ」という考えの下、市民誰もが本プロジェクトでの交流を楽しみ、姉妹都市盟約締結60年を認識し、更には友好を次世代につなぐ人材育成となれば、上辺ではない真の交流を生み出すことができるのではと考えた次第である。</p> <p>なお、鶴岡市とNB市は、縁があってこれまで交流を重ねてきたが、これまでの姉妹都市の主な経緯は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1867年(慶応3年)、庄内藩士・高木三郎は、勝海舟の嫡男、勝小鹿らと共に鶴岡出身者として初めて米国に渡り、ニューブランズウィック市にあるラトガース大に学ぶ。その後、高木はサンフランシスコ副領事を経て、1876年(明治9年)ニューヨーク領事となるなど日米親善に大きく貢献。こうした機縁から、日米修好100周年にあたる1960年6月10日に鶴岡ロータリークラブを介し、鶴岡市長がNB市長に友好都市交流希望を伝え盟約が締結された。東北では仙台に次いで2番目、全国では29番目に姉妹都市の盟約を締結した。 ・1982年、NB市長の招待により、鶴岡市長はじめ9人が初の親善訪問。1984年にはNB市長ら6人が鶴岡市を訪れる。 ・1994年、学生相互交流8人が10日間、学校訪問やホームステイ、NB市・ワシントンD.C.・ニューヨーク市等の見学を通じ交流を深めた。その後、2001年の同時多発テロやイラク戦争により交流が見送られた時期もあったが、現在まで11回の訪問団を派遣している。2002年には、同時多発テロ復興と被災者支援にむけ、鶴岡市民から寄せられた義援金180万円を届ける。 ・2010年、盟約50周年、鶴岡市長を団長とする19人がNB市に訪問し盟約継続を確認。同年11月にはNB市長をはじめ9人の訪問団が鶴岡市を訪れた。2011年NB市NBRCより東日本大震災義援金160万円を頂戴し、「あしなが東日本大震災・津波遺児募金」へ送金。 ・2019年3月に本市中学生ら8人が8年ぶりにNB市を訪問。同年11月NB市から6人の中学生が12年ぶりに訪れ、市内の観光や中学校見学、歓迎会等を通して市民との交流を深めた。

④ 交流の成果	<p>◎鶴岡市での成果 コロナ禍の中で鶴岡市民・学校・団体から広く協力を得て、新たな交流の形をつくり、姉妹都市との関わりを周知できた。誰でも参加出来る国際貢献として市民の国際理解が深まるとともに国際交流を身近に感じさせた。</p> <p>「山形から世界へ One Heartプロジェクト」第1弾 コロナ禍で中止となった鶴岡の天神祭りで使う木綿の手ぬぐいを市から譲り受け、鶴岡を感じてもらえる手作りマスクを友好協会メンバーにより30枚と市内の絹製品製造会社から提供のシルクのマスク30枚、計60枚に「Our heart are with you」とメッセージを添え8月上旬に発送した。</p> <p>「山形から世界へ One Heartプロジェクト」第2弾 鶴岡市役所市民ホールにて本プロジェクトの案内と協力依頼のメッセージボードを設置し、鶴岡市民をはじめ、各種団体に手作りマスクと折鶴を募った。当友好協会をはじめ、鶴岡高等養護学校生徒会、鶴岡地区食品衛生協会、山形県建設業協会鶴岡支部、鶴岡警察署、鶴岡市役所、鶴岡青年会議所等の協力を得、手作りマスク170枚と折鶴1803羽が届けられた。折鶴は2組の千羽鶴に仕上げ、マスクと共に荘内神社でコロナウイルス感染症拡大鎮静の祈りを込め祈禱を受け9月上旬に発送した。市民が身近に参加できる国際交流、国際貢献の一歩となった。</p> <p>「山形から世界へ One Heartプロジェクト」第3弾 ところを一つにして今の世界難を乗り越える行動を促すオリジナルソングを制作した。その後、その曲を使い、鶴岡市内の青果店、菓子店、荘内病院、警察、消防、学校等約40の職場で総勢100人以上が撮影に参加し、NB市へ鶴岡市民のメッセージ動画を配信することとした。9月12日に出羽庄内国際村で動画完成試写会を行い、同時に記者発表した。 両市がこころ一つに乗り越えようという鶴岡市民からの熱きメッセージは動画「One Heart～Keyword for the future～」となり、YouTubeで配信された。鶴岡市役所市民ホールで周知PRビデオ(15秒盤)が長期間に渡って流されたことにより、市民が参加し作られたメッセージ動画は多くの窓口手続きに来庁する方々に伝わることとなった。 メッセージソングのCDについては、教育委員会を通し市内小中学校37校に国際交流、英語教育のツールとして活用されることとなった。</p> <p>◎NB市での成果 NB市より、マスクについては有効活用するとし、健康医療・教育機関を中心とし市民に配布され、感染予防の大切さを周知するツールとして役立てられた。 千羽鶴はNB市役所での公開の後に、商店街等で展示され友好の証としてNB市民に周知された。メッセージボードやメッセージ動画とともに、「山形から世界へ One Heartプロジェクト」の活動内容や想いがNB市民に伝えられている。 こうした鶴岡の取り組みがきっかけとなり、NB市が中心となり、NB市において、5つの都市を結び新たな国際交流、友好関係を未来に開いて行く企画が提案された。(詳細は下記⑤に記載)</p>
⑤ 今後の展望	<p>NB市からの新たな提案内容。 NB市姉妹都市バーチャルアート展覧会 NB市のすべての姉妹都市(鶴岡市、福井市、デブレツェン市(ハンガリー)、リムリック市(アイルランド))を対象としたバーチャルアート展覧会を通じた交流が提案され、まさに山形から世界へと広がり、各都市で取り組んでいる。</p> <p>これまでの姉妹都市で築き上げてきた経験(訪問、学生交流、文化の共有、国際的な友好関係の構築など)を各都市の芸術活動にも反映させ、市民主体(人対人ベース)の交流を行うことは、さらなる友好関係を生み出すきっかけとなり、世界平和へとつながることを確信している。</p> <p>コロナ禍をきっかけに動き出した新たな姉妹都市交流型の都市へと波及し、それぞれの都市が優しさに満ちた幸せな社会を構築していけるよう、今後も“今できること”に取り組んで参りたい。なお、バーチャルアート展覧会はWEB上で2020年12月公開される。</p>
⑥ その他	<p>オリジナルソング「One Heart～Keyword for the future～」の内容は別紙</p>

(2) アピールポイント

下記①～⑥の【審査のポイント】に基づき審査いたします。各視点に沿って、事業の特徴等をご記入ください。

その他、強調すべき点については、「7その他」にご記入ください。

項目	根拠・理由
① 先進性	【コロナ禍において、だれでも参加できる友好交流が実現】 コロナ禍を姉妹都市と共に乗り越えようと市民が心をつにし、誰でも参加できる友好交流を進めた。一般市民はじめ地元民間企業や警察署、消防署、病院、学校等の公共的機関の協力を得て姉妹都市に届ける手作りマスク、動画、千羽鶴が作られ多くの団体に友好の輪が拡大された。 一方、我々の活動を受けたNB市姉妹都市委員会は、鶴岡市からの支援を市民に紹介し、さらに全ての姉妹都市(鶴岡市、福井市、、デブレツェン市(ハンガリー)、リムリック市(アイルランド))に向けて「NB市姉妹都市バーチャルアート展覧会」を企画提案し、芸術を通じた交流で他国との友好へ広がる重要な機会を設けた。
② 独自性	【Web時代に即応した新たな形を提案】 新型コロナウイルス発生により訪問団派遣・中学生訪問団派遣が中止となったが、鶴岡市民のほか多くの団体から協力を得て、オリジナル応援ソングと動画をつくりWebを通して新たな交流を作り上げた。鶴岡・山形からNB市・世界へ一人一人の心をついにすればどんな困難も乗り越えられると言う「One Heartプロジェクト」の力強いメッセージは両市民に伝わった。
③ 継続性	【コロナ沈静後、60周年を祝う事業を双方で確認、芸術分野ではさらなる交流拡大】 今まで続けてきた青少年間の国際交流理解を深める学生相互交流は、コロナ沈静後に再開継続する。また、60周年を祝う事業実施を両市で確認している。 今年10月に提案されたNB市の全ての姉妹都市を対象としたバーチャルアート展覧会を通じた交流が、今までの枠を越えた国際交流理解に繋がり、交流継続が期待できる。
④ 活発性	【数々の支援する取り組みは、新たな交流を生み出す】 プロジェクトを7月、8月、9月と3段階に分け活動した。その間の活動が地元新聞やテレビを通じて報道され、今まで両市の姉妹都市関係を知らなかった多くの市民に対しても周知できた。その結果、手作りマスクや千羽鶴づくりを通し誰でも参加出来る国際貢献を市民が体験できた。また、10月、11月はバーチャルアート展への出品を呼びかけ、両市の関係を知らなかった芸術に興味のある市民が参加し、制作活動をした。(11月24日現在、13人の市民が出品)芸術を切り口とした国際交流へとつながっている。
⑤ 協働性・連携性	【市・教育行政・関係機関による迅速な協働】 当友好協会は本プロジェクトを実施するに当たり、鶴岡市役所国際交流担当課と協働し、教育委員会、消防署、病院等との連携を図り、迅速な実現に至った。また大勢の市民が利用する市民ホールにて、メッセージ動画を放映し、両市の友好関係の周知に大きな成果をあげた。 小中学校へのオリジナルソングCDの配布により、英語学習に活かされ、今後の相互交流派遣に対する目標意識を向上させている。また、オリジナル動画は、英語以外に音楽制作や動画制作を将来の目標とする機会になっている。
⑥ 効果 (相手方に与えた影響や効果を含む)	【双方の友好協会会員の達成感】 この度の活動である「山形から世界へ One Heartプロジェクト」に賛同し、協力した市民一人ひとりが両市の友好関係に理解を深めたことは大きな成果であるとともに、メッセージ等を通じて、コロナ禍の世界難の中に心ひとつとなったNB市姉妹都市委員会が、4つの姉妹都市を結び、「バーチャルアート展覧会」という新たな交流の形を生み出し、5つの都市の新たな国際交流、友好関係を未来に開いて行く企画を生み出したことに、大きな効果を見出し、期待を寄せている。
⑦ その他 (500文字以内)	制作した動画の配信先(YouTube URL) http://youtu.be/BnvTDOPymPs 今回の活動には、20代～30代の若者10数名が中心となり取り組んだ。これまで国際交流や国際貢献など直接、縁がなかった世代がコロナ禍において本業に支障がありながらも時間を割き、Web上で出来る交流活動を考え、リアルタイムで多くの人々がメッセージを受け取れるものに仕上げた。受けとめたNB市姉妹都市委員会の安堵感、満足感を知った彼らは達成感にあふれ、喜びや楽しさをほかの若者たちに伝え始めている。鶴岡・NB友好協会の裾野が拡大していることも大きな成果である。

【審査のポイント】

1先進性	・他団体に広がる先例や模範となりうるものとなっているか。
2独自性	・創意工夫に富み、他団体では見られないような独自の発想や着眼点があるか。
3継続性	・活動の継続、効果や実績の定着が期待できるか。 ・(実績は少なくとも)今後の活動の継続性・発展性が大いに期待できるか。
4活発性	・活動内容が質量ともに充実しているか。 ・多様かつ多数の者が活動に参加又は関与しているか。
5協働性・連携性	・行政と住民等、多様な主体間での協働、連携がなされているか。 ・協働、連携により、事業の効率的な実施や成果の向上が図られているか。
6効果	・この取組により、地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上等につながっているか。